

為せば成る 為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり

豊橋市立二川中学校
2年1組 学級通信
令和元年12月5日号

ジョブズは自分の子どもにもiPadやiPhoneを

ジョブズは自分の子どもにも iPhone や iPad を使わせなかった

米アップル創業者のスティーブ・ジョブズ (2011年10月死去) は、自分の子ども達には iPhone や iPad を使わせなかった——。米新聞大手ニューヨーク・タイムズが報じています。ジョブズの驚くべき答え。それによると、2010年後半のある時、ジョブズは同紙のニック・ビルトン記者に電話をかけ、彼が書いた記事を猛烈に批判。記事は発売されたばかりの iPad の欠点について書いたもので、ジョブズはその記事に間違いがあると主張したそうです。一通りのやりとりが終わった後、ビルトン記者がちょっとした「反撃」に出ます。「じゃあ、あなたの子どもさん達は iPad が好きなんでしょうね」ジョブズの答えは、驚くべきものでした。「いいや。まだ、使っていないよ。家庭では、子ども達のハイテク使用を制限しているんだ」。これを聞いて、ビルトン記者は「しばらく言葉が出てこなかった」と振り返っています。「てっきりジョブズ家は、ハイテクおたくの天国のようになっているとばかり思っていた。特大スクリーンの壁。iPad をタイルのように使ってきた食卓。そして、枕にお休みチョコを置くように、客には iPod が渡される。だから、ジョブズの答えは本当に意外だった」。

米ハイテク、ベンチャー企業幹部の多くも同様

それからビルトン記者が「子どもとハイテク機器」に注目して取材してみると、米国のハイテク企業やベンチャー企業の幹部の多くが、家庭ではジョブズと同じようなことをしていたことが分かったそうです。ツイッター創設者の起業家エバン・ウィリアムズ、雑誌ワイアード前編集長のクリス・アンダーソン、フェイスブックのアドバイザーをしているアリ・パルトビ……。彼らやその妻は、自分の子どもがハイテク機器の画面を見る時間を厳しく制限し、翌日に学校がある晩は全く使わせなかったり、週末でもアクセスできる時間を禁欲的に制限したりしているといえます。

ジョブズの子どもたちはどうしていたのか？

小さな子どもが「ハイテク機器」に触れることの危険性とは、まず有害なコンテンツにさらされること。例えばポルノや他の子ども達からのいじめなどです。そして最も怖いのは、こうした機器やネットの世界に依存する「中毒症状」に陥ってしまうことだそうです。

ジョブズには4人の子どもがいることが知られており、2人目の妻ローリーンとは3人の男女を育てています。では、ジョブズの子ども達は、父親が作った機器を使う代わりに、どうしていたのでしょうか？伝記「スティーブ・ジョブズ」を書き、ジョブズの自宅を何度も訪れていたウォルター・アイザックソンにビルトン記者が取材したところ、「スティーブは毎晩、台所の大きな、長いテーブルで食事をしながら、必ず本や昔のことやいろんなことについて子ども達と話し合うようにしていた」といいます。「誰も、iPad やパソコンを持ち出すことはなかった。子ども達が機器類に依存しているような感じは、全くなかったね」。



本名スティーブ・ジョブズ。アップルコンピューター社創設者の一人。赤字経営の責任を取らされ、一度は会社を解任される。映画で有名なピクサー社のCEO (経営最高責任者) に就任。映画「トイストーリー」などを製作。その後、経営難に陥ったアップル社に復帰。その後の活躍は、みなさんも知る iPad や iPhone など、数々の商品を発表し、世界中で知らない人はいません。そんな人だからこそ、ハイテク機器の危険性をよく知っていたのでしょう。